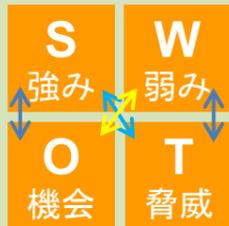




- ② まちづくりの方向性を踏まえ、SWOT分析による事業の抽出を行いました。
- ③ SWOT対象図に事業の抽出と共に該当する地点を図面に落としつけていきました。



- ①SO「S:強み」×「O:機会」(活用・積極姿勢)
  - ・「機会」に応じた「強み」の活用策
  - ・組織や地域の「強み」を生かして、「機会」を勝ち取るための積極姿勢の施策
- ②ST「S:強み」×「T:脅威」(改善・差別化)
  - ・「強み」を生かした「脅威」の解消策
  - ・組織や地域の「強み」を生かして、「脅威」を招かないための差別化の視点に立った施策
- ③WO「W:弱み」×「O:機会」(改善・弱点強化)
  - ・「機会」を生かした「弱み」の改善策
  - ・「弱み」を補強して「機会」を掴むための弱点強化の施策
- ④WT「W:弱み」×「T:脅威」(回避・防衛、撤退)
  - ・「脅威」に対する「弱み」の回避策
  - ・「弱み」で「脅威」を招いてしまうシナリオを避けるための防衛、撤退の施策

A班(平野組)



抽出された事業

- ① 伝統文化の拡大事業 (SxO)
- ② 史実の顕彰による観光の連携強化 (SxO)
- ③ 地域全体の防災力の強化 (WxT)
- ④ 地域イベントの拡大事業 (SxO)
- ⑤ 河川を利用したマラソン大会の実施 (SxO)



B班(住んでみたい鶴崎のまち)



抽出された事業

- ① 施設園芸農家経営コミュニティの創成 (SxT)
- ② 豊かな歴史伝統文化「鶴崎踊り」の継承 (SxO)
- ③ 鶴崎駅周辺の整備 (WxO)
- ④ 鶴崎地区 学校が多い、学力向上、交流 (SxT)
- ⑤ 鶴崎行きバスの路線の設置 (WxO)
- ⑥ 鶴崎駅を中心とした地区によってマイクロバス運用など便利の良い交通網 (WxO)



C班(つくろうつるさき)



抽出された事業

- ① 子どもたちが将来住みたくなるまちづくり事業 (SxO)
- ② 鶴崎駅周辺整備事業 (SxO)
- ③ 川を活かしたまちづくり事業 (SxO)
- ④ 空家・空き地を利用した地域コミュニティ活動の推進 (SxT)
- ⑤ 大分の副都心鶴崎 (SxO)



- ④ まちづくりのアイデアを導き出した考案者が班のメンバー及び市職員と共に話し合いながら事業を導きました。
- 成果発表: 班の導いた事業の主要なポイントを発表しました。

【A班(平野組)】  
 我が考えた事業名としては5つ挙がっています。その中を見ると、①②④が伝統文化の継承など、似たような事業になっています。三佐の方でも野坂神社の春季例大祭があり、鶴崎でもけんか祭りや鶴崎踊りなどいろいろな伝統文化の場があります。将来的には鶴崎の公民館を整備して、そういったところできそうな状況だとか、歴史資料の継承といったものを公民館の中に写真とか掲示できるスペースを作って、鶴崎公民館に来たら鶴崎地区全体の行事関係が見えるような整備も必要じゃないかなということ、挙げています。それと、河川を利用したマラソン大会の実施について、鶴崎には大野川と乙津川という大きな河川がありますので、その河川敷を利用した状態でまちを活性化したいということで挙げています。今現在、水辺の楽校ということで乙津川の河川敷に整備されていますけれども、そこに手を加えて市民がもっと今まで以上に集える場として整備していきたいということです。

番号	事業名	SWOT		評価		コメント
		強み	弱み	機会	脅威	
①	伝統文化の拡大事業	●	●	●	●	・三佐の山車、けんか祭り、鶴崎踊りなど歴史文化を活かし継承していく ・鶴崎地区全体のコミュニティの向上、活性化には新たな施設整備が必要 ・①②④の事業は重なる部分がある
②	史実の顕彰による観光の連携強化	●	●	●	●	・歴史を活かした観光交流を図る ・鶴崎に縁のあった俳人の出身地と観光協定を結ぶなど ・①②④の事業は重なる部分がある
③	地域全体の防災力の強化	●	●	●	●	・地域のインフラを強化して防災面を強化
④	地域イベントの拡大事業	●	●	●	●	・鶴崎踊りのスポンサー集めも厳しくなってきたり、 ・他の祭り(大南の合戦、ななせの火群祭り)の台頭 ・鶴崎踊りを活性化させたい →プロのプロデュースが必要 ・①②④の事業は重なる部分がある
⑤	河川を利用したスポーツ施設の整備とマラソン大会の実施	●	●	●	●	・乙津川にマラソンコースをつくる →キャンションのアスリートの方に利用してもらおう。 ・大野川でボート競技の練習ができるようになる ・子どもたちの情操教育になれば →鶴崎地域からオリンピック選手をだしたい

【B班(住んでみたい鶴崎のまち)】

メインテーマは、みんなが住みたくなる伝統と文化のあるまちということで、いろいろと皆さんに意見を出していただきました。そして、6項目出たのですが、3項目が関連しておりそれをひとつで取り組もうということです。1つは豊かな歴史伝統文化「鶴崎踊り」の継承。そして鶴崎地区は学校が多いので学力向上、学校間・生徒間の交流を図ってほしいと思います。そして、鶴崎駅を中心とした地区によってマイクロバス運用など便利の良い交通網、これがひとつのグループになりました。そして次に、施設園芸農家経営コミュニティの創成と、鶴崎駅周辺整備、鶴崎行きのバス路線の設置、このような形でグループとしては6項目ありますが、実際は4つの項目で取り組んでまいりたいと思います。

番号	事業名	SWOT		評価		コメント
		強み	弱み	機会	脅威	
①	施設園芸農家経営コミュニティの創成	●	●	●	●	・鶴崎の土地は肥沃 →名産品の三つ葉、大葉を活かしていければ
②	豊かな歴史伝統文化「鶴崎踊り」の継承(活かしたまちづくり)	●	●	●	●	・地域コミュニティの向上を目指す活動拠点が必要 ・鶴崎踊りが雨でも実施できる、屋根付きのグラウンドを希望
③	鶴崎駅周辺整備	●	●	●	●	・鶴崎駅を降りてからの交通手段が少ない →駅を起点に4方向にあれば ・地域を循環する小さいバスがあれば、まちの活性化につながるのでは ・③⑤⑥の事業は重なる部分がある
④	鶴崎地区 学校が多い(生徒数も) 学力向上 交流	●	●	●	●	・学校まかせにしないことが必要
⑤	鶴崎行きバスの路線の設置	●	●	●	●	・鶴崎駅行きのバスがない ・路線バス、道路道路交通機能が欠如しているので充実させる必要がある ・③⑤⑥の事業は重なる部分がある
⑥	鶴崎駅を中心とした地区によってマイクロバス運用など便利の良い交通網	●	●	●	●	・鶴崎駅にロータリーがあれば便利だが、必要かどうか ・駅周辺にカフェやレストランができればにぎやかになるのでは ・幹線道路にしかバスが走っていない →高齢者が大変なのでマイクロバスなどが運行できれば ・③⑤⑥の事業は重なる部分がある

【C班(つくろうつるさき)】

5つ出ています。それぞれ単独の事業と考えていますが最終的には、最後に書いてある大分の副都心鶴崎という大きなテーマがあります。ただあまりにも漠然と大きすぎるので、一つひとつの事業は、思いがあるので単独にしています。子どもたちが将来住みたくなるまちづくり、ふるさとづくり、これは住環境、環境問題、交通問題等を含めてテーマとして掲げました。駅周辺整備については、駅と書いていますが、鶴崎の公民館や、いろんな箱物を含めて全体を活性化していきたいという中でこの駅ということで、決して駅単独で考えているわけではありません。次に川を活かしたまちづくり事業。大野川の流域の文化や歴史等大きなものを活かして、将来子どもたちに残して行くために資料館等を作って、防災教育も含めて色々残して行くもので、大きなまちづくりのマスタープランの中に活かされるテーマだと理解しています。それから空き家、空き地を活かした地域コミュニティ活動の推進ということで、今大きな問題になっています、空き家・空き地対策について挙げています。

番号	事業名	SWOT		評価		コメント
		強み	弱み	機会	脅威	
①	子どもたちが将来住みたくなるまちづくり事業	●	●	●	●	・優良性のあるまちを作る ・生活の利便性の向上、道路交通機能や公共交通機能の向上、子どもや高齢者の福祉充実、地域の歴史を活かす ・子どもが優先を確保する →企業誘致、地域の企業誘致
②	鶴崎駅周辺整備事業	●	●	●	●	・鶴崎駅周辺(広域)の整備をする必要がある ・鶴崎駅にシャトルバスが発着できるように →ラッピングやフードマップなどのイベントに活用 ・市民会館の整備が前提 →水害対策の実施(台風の被害箇所になっておらずだった) →防災を兼ねた総合コミュニティセンターがあれば
③	川を活かしたまちづくり事業	●	●	●	●	・大野川沿いの幹線道路(戸次〜高田〜鶴崎)が必要 ・大分スポーツ公園の整備からの利便性向上 ・日豊海岸線正公園を活用する →鶴崎駅周辺にトレンギングコースや観光バスの巡回など ・大野川でとれる鮎やつなぎの活用 ・水辺の環境を活かす →大野川の歴史(自然災害被害など)を伝える遊覧船等を兼ねた資料館をつくる →近隣の学校の校外学習の場所などにも活用
④	空家・空き地を活かした地域コミュニティ活動の推進	●	●	●	●	・空き家、空き地対策 ・空き家、空き地を活用した地域コミュニティの場の整備 ・空き地に集合住宅等を建設
⑤	大分の副都心鶴崎	●	●	●	●	・鶴崎地区を大分の中核都市に ・駅前再開発でにぎわいづくり ・文教地区のまちづくり